

学校ビジョンの実現に向けた組織の編成と円滑な運営に関する提言 ～子どもと向き合う時間を生み出す組織の編成と運営の工夫～

埼玉県加須市立田ヶ谷小学校 寺井 次郎

I 現状と課題

1 現状認識

学校における働き方改革が叫ばれている。我々校長は、業務の効率化を図り教職員のワーク・ライフバランスの適正化に努める必要がある。

しかしその一方、特別な配慮を要する児童や課題のある家庭・保護者が増加し、対応すべき課題も山積している。教員は自分の時間どころか最も重要な子どもと向き合う時間の確保もままならない実情がある。

2 課題分析・アプローチの視点

このような状況の中で、教職員の負担を軽減し、子どもと向き合う時間の確保が必要となるが、物理的な時間の創出ということについては限界があるように感じる。

そこで、今回の報告では時間的なゆとりの創出、つまり「多忙の軽減」という視点に加え、子どもと向き合うための精神的なゆとりの創出、すなわち「多忙感の軽減」という視点から、学校経営の改善についてアプローチしていきたいと考える。

II 研究の概要

1 時間的ゆとりの創出

(1) 生徒指導・教育相談における外部機関との連携

①発達障害を伴う児童への対応

市の教育センターを紹介し、臨床心理士やカウンセラーに保護者を指導してもらうとともに、担任教師に対してもアドバイスをしてもらい、対応の方向性を定め、職員間の共通理解を図った。

②家庭や保護者に起因する生徒指導への対応

市の保健センター、子育て支援課、児童相談所などの協力を得て、家庭内の問題についてはそちらを窓口とし、学校外で解決を図るようにした。

(2) 会議等の効率化

小規模校の特性を生かし、運営委員会や生徒指導委員会などは特別に設置せず、職員会議や週一度の職集のときに併せて実施するようになった。

(3) 事務の効率化

これまで行っていた事務について、削減できるものは削減に努めた。

(4) 研修内容の選択と集中

年度当初に学校の研修課題を「道徳科の授業改善」とし、年間計画を定めた。それ以外の研修は極力組み込まないようにして、それぞれが事務作業や教材研究に充てられる時間とした。

2 精神的ゆとりの創出

(1) 生徒指導体制の整備

「報・連・相」を徹底し、問題行動があった場合、早期に教務・管理職が介入し、担任の負担を軽減した。

(2) 自己評価シートにおける重点目標の公開

年度当初に全職員にそれぞれの今年度の目標を公開させ、その達成のために他の職員にも協力させるようにし、組織としての一体感を高めた。

(3) 風通しのよい温かな職場づくり

管理職も含めた職員間で気軽に相談し合える雰囲気づくりに努めた。

(4) 管理職による適切な評価とねぎらい

教職員の活動の様子をよく見て、適切に評価し、労うに、モチベーションの維持・向上に努めた。

III 成果と課題

1 成果

(1) 外部機関のアドバイスによる方向性の明確化

外部の専門家から対応の方向性が示されたことで指導方法が明確になり、時間的にも精神的にも負担が減り、子どもと向き合うゆとりを作ることができた。

(2) 生徒指導への組織的対応による担任の負担減

生徒指導を担当任せにしないことで、精神的負担が軽減し、早期解決も図ることができた。

(3) 業務効率化による時間の創出

会議の統合、不要な報告書・計画書の削減等により、一定の時間を確保することができた。

2 課題

(1) 生徒指導・保護者対応業務の偏り

生徒指導、保護者対応業務が特定の学年・学級に集中しており、今後も注意が必要である。

(2) 業務見直しの限界

交通安全や不審者対応など児童の安全に関わる業務や学校行事などで簡素化できないものがある。

IV 提言

(1) 外部機関の積極的活用

問題が多様化する中、役所や児童相談所などの外部機関を積極的に活用することで、子どもと向き合う時間を創出することができる。

(2) 精神的ゆとりの創出

管理職が適切に評価し、ねぎらい、温かい雰囲気の職場をつくることで子どもと向き合う精神的ゆとりを創出することができる。

(3) 県・市教育委員会等の理解と協力

業務削減について教育委員会の協力が不可欠である。